

HOPES  
ホープス セカンド  
2nd

「高齢の祖父母が村に帰ると言っているので、側にいたいと思って、農業を学んでいます」という須藤さん。今年の春から、菅野今朝男さん（関根松塚）の元で研修を始め、現在は試験的にカスミソウを栽培しながら、生産組合の皆さんから、栽培技術を教わっています。「今は、比曽の農地で、試験的な栽培を行っています。祖父母が米や野菜を出荷し、牛

若い力で恩返しをしたい

須藤 幸広さん（比曽）



高校時代に父を亡くし卒業直後に大震災を経験。飲料メーカーに勤務した後、祖父母と共に帰村することを決意して就農。現在は村の農業者の協力のもと研修を重ねています。



花き栽培に取り組む先輩達の作業を手伝いながら技術を学んでいます。出荷の最盛期を迎えたカスミソウの切りそろえ方を高橋民さん（関根・松塚）から教わる須藤さん（手前）

も育てていたので、小さい頃から農作業には親しんでいますが、自分でやってみるのは初めてです。

福島市内の仮設住宅で暮らす祖父の浪男さんも、毎日のように村に通って、草刈りや農地の管理をしています。幸広さんにとっては、心強いもう1人の先生です。「研修で農業の大変さも感じましたが、嫌にはならなかった」。会社員時代とは違った良さが農業にはあると感じるそうです。

現在、比曽の自宅はリフォーム中。祖父母と共に暮らせる日も遠くはありません。「祖父母は共に元気ですが、高齢なので心配もしています」。来年からはカスミソウの栽培も本格的に始めたい考えです。「もともと農業をしていた方の営農再開の後押しになればと思います。また、若者の帰村者が少ないと聞くので、新規就農者が増えるきっかけにもなれたらうれしいです」。

＜編集後記＞

●「良いアイデアが生まれる場所には笑顔がある」人口減少に高齢化と聞くと、どうしても暗いイメージをもってしまうですが、九州のある町では町民ができることを持ち寄り、互いに支え合って暮らしているそう。そこではなんと、90歳のおばあさんがボランテアを楽しそうに、笑顔で行っています。「笑顔」でいることは「生きがい」でもあるのかなあと思わされる、ステキな笑顔との出会いました。（木幡）

●祖父の家庭菜園の野菜で育ちました。採れたて野菜をミキサーにかけてグビグビ飲んだ朝のジュース。今思うとぜいたくでした。食卓の花も畑から。なぜか食事は時間厳守で、少食だった少女時代は時計を気にして食べました。味噌汁担当から昇格してお弁当係になったのは中学生の時。あれも今で言う食育だったんですね。祖父と畑で飲む青空コーヒーが好きだった私。野菜や花の育て方も習っておくんだっただなあ。（星）



飯舘村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。